

○合格おめでとうございます。今の率直な気持ちを聞かせてください。

まずは合格できてホッとしています。とてもハードな受験だったので、途中何度もくじけそうになりましたが、家族や仲間たち、そして先生方に支えてもらいながら、最後までやり抜くことができました。だから、本当にうれしいです。

○お疲れさまです。では、さっそくですが、どのような道のりだったのか聞かせてください。

私が共創学部のことを知ったのは、2年生のころ、知人からの紹介がきっかけでした。当時はまだほとんど進路が具体的に定まっていなかったのので、“なんとなく、一応見とくか……”くらいの軽い気持ちで共創学部のオープンキャンパスに参加しました。そこでまず衝撃を受けたのが、【 共創学部が文理融合の学部 】であることです。共創学部では文系・理系と専門を分けるのではなく、1つのテーマに対して必要な分野を自分で選択して学ぶのです。

○グローバル専攻の方針と似ていますね？

私も、なんか、どこかで聞いたことがあるような言葉だと最初から感じていました（笑）

私は元々“学んだこともない学問を専門にできない！全部学んでから決めたい！”と思い、専門を決めない学部に進学したいと考えていました。だから、アメリカの大学を志望していたのですが、国内にそんな学部があるとは全く予想もしていなかったのでもって驚きました。九州大学共創学部ならば、グローバルでの学びをいかしつつ、専門を決めずとも私の夢を追いかけることができるかもしれない！と直感し、共創学部を受験することにしました。夢はあるけど、どんな専門分野を学ぶべきかわからない……と感じている人は一度オープンキャンパスなどに参加してみるとよいかもしれません。

○具体的には、どのような試験だったのですか？

一次試験では『調査書』『志望理由書』『活動歴報告書』の3つを提出しました。こう聞くと、まあ普通じゃないかと思われる方もいるかもしれませんが、これがかなり苦労しました…笑

共創学部の志望理由書は、【 共創学部を志望する理由を、本学部の趣旨に照らしてみた自己の適正や抱負などに関して、詳しく記述してください。 】という指示に従って、出願者本人の自筆で書きます。手書きなので、人によって文字数に差はあると思いますが、私は2000字ほど書きました。

○2,000字？それはすごいですね。だいたいどのくらいで完成させたのですか？

今年の7月頃から私は志望理由書を書き始めましたが、完成したのは提出ギリギリ。7月からでもスタートが遅い方だったなと思います。自分の夢は何か、夢を叶えるために何を学びたいのか、どのように学びたいのか、自分の強みは何か、こういった自分と向き合う問いを考えながら何度も書き直しました。実は、共創学部の志望理由書だけで18回書き直しています…

（笑）何度もフィードバックをくれた先生方（特に何時間も面談して下さったS先生……）や3年生の仲間たちみんなには本当に感謝しかありません。苦しくもありましたが、自分の考えを整理することができたのでとてもよい機会でした。

○活動歴報告書には何を書いたのですか？

活動歴報告書では中学生から現在までの、課外活動についてまとめました。具体的には、

- ① 時間の経過に沿った各種活動の内容
- ② ①の中で最も重点を置いて取り組んだ1つの活動の詳細
- ③ 受けたことのある表彰
- ④ 取得した資格や各種検定

を書いていきます。活動歴報告書を書いていると、あまり一貫性がないと思っていた自身の経験が次々に繋がっていくような、点と点が一本の線になる感覚があり、楽しかったです。同じ経験をしていたとしても、その受け取り方は十人十色。自分が何を、どう感じ、受け止めていたのかをじっくり振り返る良い機会になりました。

○一次試験の結果はすぐにわかるのですか？

いえ、一次試験の合格発表までおよそ1か月かかりました。やるべきことはすべてやったとはいえ、合格発表の日までは安心できませんでしたし、落ち着かない日々を過ごしていましたね。“きっと私は大丈夫”と自分を励ましながら乗り切りました。10月半ば、ようやく1次試験の合格通知が届き、ほっとすると同時に次の二次試験に向けて緊張感を抱いたことを覚えています。

○二次試験はどのような内容だったのですか？

一言で表すならば、【大学生の疑似体験】という感じですかね！？実は、共創学部の二次試験は2日間に渡って行われ、実際に大学で学ぶに値する能力を持っているかどうか確かめられます。この2日間におよぶ受験日程は日本で一番長くてハードだと言われています。

○日本で一番ハードな試験で合格したわけですね？

はい。まあでも、すべての大学の入試方法を把握しているわけではないので、よくわかりませんがね。移動に時間がすごく時間がかかったという意味ではとてもハードな試験でしたね。コロナ禍の影響を受けて、飛行機が減便されていて困りました。でも、福岡には親戚が住んでいるので、いろいろとフォローしてもらい、リラックスして受験できたのは幸いでした。

○改めて具体的な試験内容を教えてください。

はい。初日は、【実際の大学の先生方の講義を受講し、レポートを作成する】という試験です。【50分間の講義と90分間のレポート作成】を2回行いました。講義の内容は様々で、文理融合の共創学部らしく文系分野と理系分野から毎年1つずつ講義が行われます。ちなみに今年度は、【文系：環境問題対応のパラダイムシフト～保護から保全へ～】【理系：食の持続可能性（発育ゼロ点の算出方法など）】が講義のテーマでした！講義を踏まえて、いくつかの設問に対して自分の立場を明確にし、それを論理的に論述します。自分の考えを述べるものもあれば、英語・日本語の長文を要約する問題もありました。また、計算の問題も出ますが、講義の中で方法を教えてもらうことができたので、数学の知識や計算力以上に講義を理解することが重要だと感じました。

○もう1日目だけでもぐったり疲れそうな内容ですね？2日目も集中して受験できましたか？

はい、大丈夫でした。この3年間でずいぶんと思考体力がつかまりましたからね。スタミナは十分でしたよ。2日目の午前、初日の講義とレポートを踏まえたうえでの討論です。受験生が5つのグループに分けられ、試験官3名と受験生12名で行われました。1日目の講義それぞれにテーマが与えられ、計3時間もの討論でした。討論の人数やテーマはグローバル専攻の全員セッションと近いものがありますが、実際には時間が短かったり、知らない人同士だからこそ考え方や前提のズレが多かったりとかかなり難しかったです。

○まだ2日目の試験は終わらなかったんですか？

はい、まだ終わりません。なんせ日本最長の総合型選抜（AO入試）ですから（笑）討論が終わると、昼食をはさんで4時間の小論文に移ります。小論文では、討論で扱ったテーマを基に、自分で標題を設定して小論文を書きます。講義・レポート・討論の全てを踏まえた上で自分の意見を展開する必要があるので、二次試験の中で一番頭を使いました…。所定の回答用紙3枚分、おそらく2200字程度書きました。普段パソコンが親友の私は手の疲れでへろへろでしたね。腕がすりそうでした（笑）

○ようやく小論文で終わりですか、お疲れさまでした。

いえ、まだまだ終わりません（笑） 実際は、小論文作成と並行して別室で個人面接が行われました。受験生1名に対して、試験官は3人です。具体的には、

- ① 共創学部で何を学びたいか
- ② 留学の計画
- ③ 志望理由書に書いた私の夢に関して
- ④ 卒業後の進路
- ⑤ 大学生活で挑戦したいこと
- ⑥ 日本の教育の現状について（志望理由書で教育については触れていません）

などが聞かれました。面接は終始和やかな雰囲気で行われ、楽しく議論できました。

○ここまでが二次試験ですか！？本当に、てんこ盛りという感じですね(笑)

受験の段階で九州大学の学生生活の一端を体験でき、講義も純粋に楽しめるものでしたが、それでもやはり疲労感はすごかったです。ちなみに、私は受験の2日間で3kg痩せました。受験ダイエットです（笑笑）

○どうしてそんな過酷な入試を乗り越えることができたのでしょうか？とても不思議です。

そうですね。自分でも、このハードな共創学部の総合型選抜を戦っていく中で、常々感じていたのが“グローバル専攻に入ってよかったなあ”という気持ちです。これは誰かに無理矢理言わされているわけではありません！！本当に、心からそう思っています。なぜそう思っていたのか、紹介させてください。

○教えてください。とても興味があります。

受験ではグローバルで身につけた「考え続ける体力」に助けられたなど実感しています。よりよいものを目指して提出書類を書き直し続けることも、限られた時間で講義を深く理解することも、討論での他者の考えや自分の考えに「なぜ？」と問いを立て、自分の標題で小論文を書くことも、どれも「考え続けること」ができなければ乗り切ることができないものであり、一発勝負の大学受験の緊張感の中、それをするには想像以上に苦しいことでした。

ただ、どれだけ苦しくても不思議と「もう考えたくない」と思うことはなかったです。これは、1つのテーマを1年間考え続けるセッションや、それぞれの知識・考えを持ち寄って議論する各教科の授業の中でもっといい表現はないだろうか？更に論理的な根拠はないか？と3年間日常的に考え続けたことで得た「考える体力」があったからこそだと思います。

優れたマラソン選手が、レース終盤になっても挫けず、ペースを上げようとする事ができるのと同様に、「考える体力」があったからこそ苦しくなっても考えることを辞めず、よりよいものを求め続けることができたと考えています。

○各教科ではどのような力を身につけることができたのですか？

今年度の九州大学共創学部の二次試験のレポートは、例年よりも設問数が多く、受験生はみんな時間と戦っていました。もちろん私も。この戦いで私を助けてくれたのが「英語と数学」です。グローバル専攻の英語では、英文を要約したり、自分の言葉で言い換えたりする力を重点的に伸ばしていきます。単語1つひとつの意味を正確に覚えるのではなく、文章をじっくり読み、この文章で言われている内容はこういった内容だろう、これを主張するためにこの例を使っているのだろう、と推測・理解する力です。この力がまさに、英語長文を基に解答するレポートで役立ちました。

また、数学の問題についても、同様のことが言えます。グローバル専攻の数学では、公式や問題の解き方を覚えるのではなく、公式の意味や必要に応じて公式を組み合わせる方法を考えていきます。二次試験のレポートでは、事前に講義で紹介された通りの方法で解こうとすると、かなり時間のかかる問題が出されたので、公式の意味を考慮して、他のものと組み合わせたり、変形させたりする力が活かされました。英語・数学どちらの力もグローバル専攻以外では身につけることができなかったな、とありがたく思っています。

○最後に何か言っておきたいことがあればお願いします。

最後に、今回このような結果を得ることができたのは、学校の先生方や仲間たち、そして学校内外で私たちを応援してくださった方々のおかげです。そしてその人たちとの縁は、広い視野で多様なことにチャレンジするグローバル専攻の学びが繋いでくれたものです。

進路のことで悩んでいる高校1・2年生の皆さん、グローバル専攻の卒業後って？と不思議に思っている中学生やその保護者の皆さんに、少しでも大学受験の雰囲気を感じてもらえれば嬉しいです。

現代社会では、誰でもネットで知識を探し、家で1人でも学習ができます。でも、そんな現代だからこそ、信頼できる仲間や尊敬する方々、苦勞して学ぶ経験ができたこと、本当にありがたく思っています。高校を卒業した後も、ずっと学び続ける人でいたいです。